



コミュニティ
だより

世界観を感じる



発行：向東小学校
教頭：石原 政信

コミュニティだより第5号では、絵本作家である本田哲也さんによるワークショップ、向東在住の仲尾修さんによる短歌教室、助産師である吉廣朱美さんによる「命の教室」について、お伝えします。



10月15日(木)、緒方恵理子さんのご紹介により、北海道在住の絵本作家「本田哲也」さんをお迎えしての原画展&絵本ワークショップを開催する機会に恵まれました。本田哲也さんは、「エトピリカの海」「こぐまの森」など、北海道の自然や動物をテーマに絵本を描かれている方です。子供達の感性や創造力を高めることを目的に全国をワークショップで巡られています。わずか数分で子供達の要望に応じた絵を描いて頂いたり、実際の原画を間近で見られる機会に恵まれて、まさに「本物」に触れる感動を味わうことができました。

命に学ぶ

M・S 家庭・地域と協働し、児童の豊かな心を育てます。

6年生は、9月18日(金)に助産師である吉廣朱美さんをお招きして、「命の教室」が開催されました。助産師という仕事を通して、子供達に、命の大切さをもとに、自分自身の存在を改めて、見つめ直す機会を得ることができました。

赤ちゃんが、命をかけて、生まれてくる そのとき聞こえる きせきのうぶごえ

40秒ぐらい息を止めて、命がけで生まれてきた赤ちゃんが、元気いっぱい出す産声は、奇跡のうぶ声だと思って、この短歌を書きました。赤ちゃんが、産まれる直前に息をとめる事を初めて知りました。でも、産声が聞こえてきたら、世界が変わるように、うれしくなると感じました。ほかに、自分の誕生日は自分で決めるという事を初めて知りました。でも、やっぱり命が一番大切という事をあらためて感じました。ありがとうございました。



M・S 家庭・地域と協働し、自立できる児童を育てます。



ありがとう。産まれたことが嬉しいよ。奇跡をいつも感じているよ。

授業を通して、初めて知ったことや、驚いたことがたくさんあります。一番驚いたことは、私が産まれたことが1億分の1の奇跡だということです。もしも、産まれてこなかったと思うと、本当に感謝します。命の大切さを教えてくださり、ありがとうございました。



表現の豊かさ



春の陽のみちてしずもる果樹園に座して目で追う試歩する妻を

仲尾修

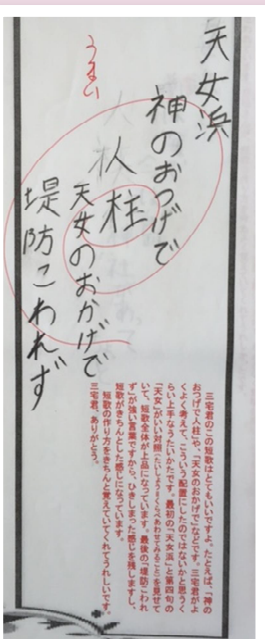
右の短歌は、仲尾修先生の作品です。ご夫婦お二人で守ってこられた果樹園を。仲尾先生の奥様が退院された後に試し歩きをされている様子を詠まれたものです。仲尾先生のお様を見守る眼差しのおたかさをこの歌から感じとることができます。

限られた字数の中で、言葉を選び、言葉の背景に心情を馳せる短歌は、正に高度な表現活動です。「五・七・五・七・七」というリズムに言葉をのせるのは、メロディに歌詞をのせる「歌」と共通しています。毎年、仲尾先生は一人一人の子供達の作品にメッセージを丁寧に返して頂いています。私達教職員が見習うべき姿、子供達への愛情を感じずにはいられません。

先日は、お忙しい中、私達6年生のために短歌を教えに来てくださり、ありがとうございました。俳句と短歌の違いは五・七・五の俳句に対し、短歌は、五・七・五・七・七の三十一の音で作る、

短歌は、季語を入れなくてもいいということから学びました。実際に短歌を作ってみるときは、夏休み中にしたことが

たくさんあって迷ったけれど、花火大会のことについて書きました。修学旅行のときにも、また短歌を作るけれど、その時は、しっかりとまわりの風景を見て、感じたことを書きたいと思うし、教科書とかにある短歌みたいにうまく書きたいと思うし、教科書とかにある短歌みたいにうまくかけるように教えてもらったことを生かしていきたいです。仲尾先生も体調に気をつけて、元気に過ごしてください。短歌は楽しいので、また、いつか来て、短歌のことについて、いろいろ教えてください。



M・S 家庭・地域と協働し、児童の学力伸ばします。